

2020年4月19日
復活節第2主日

家庭礼拝のための
聖書・牧会祈禱・メッセージ



【牧会祈禱】

命の源である神様。

この日曜日、私たちの教会や世界中の教会で礼拝が中止となっています。礼拝を行えないことは、自分の存在を揺るがされるような衝撃があります。けれども、神様は私たちの家を教会としてくださいました。どうか、今ささげられている礼拝の中心にあなたがいてください。復活したイエス様が弟子たちに伝えてくださったように、私にも祝福と平安を教えてください。

新型コロナウイルスが一日も早く終息しますように。今、医療者たちはこれまで経験したことのない状況の中で働き、医療体制を保とうとしています。どうか、支えていてください。政治に携わる人や責任を持った人たちが、小さい人たちをないがしろにせず、適切な判断ができるように導いていてください。

私たちの友の中に、手術を終えたばかりの人や、今入院をしている人がいます。心や体が弱っている人や、家族と会うことができない人がいます。不安を抱えながら仕事をしている人がいます。神様が一人ひとりを癒やし、励ましていてください。新しい一週間を、あなたの子として、愛と思いやりをもって過ごせますように。

このお祈りを主イエス・キリストの御名によって御前におささげいたします。アーメン。

【聖書】

13

⁸ 互いに愛し合うことのほかは、だれに対しても借りがあってはなりません。人を愛する者は、律法を全うしているのです。⁹ 「姦淫するな、殺すな、盗むな、むさぼるな、

そのほかどんな掟があっても、「隣人を自分のように愛しなさい」という言葉に要約されます。

¹⁰ 愛は隣人に悪を行いません。だから、愛は律法を全うするものです。

【メッセージ】

人に対して負債があれば、それを必ず返さなければならなりません。しかし、愛だけは別だとパウロは言います。たとえば、親からもらった愛は

返そうと思っても、返し切れるものではありません。受けた愛をきっちり返そうとすれば、かえって水くさいと思われるでしょうし、またその愛を

無にしてしまうこともあるでしょう。だから、愛の負い目は返すことができないのかもしれませんが。しかし、パウロが伝えたかったのは、人から受ける愛の負い目ではなくて、イエス様のゆえに人を愛さずにはいられないという負い目のことです。

私たちは、愛するのにふさわしい人を選んでから、愛そうとします。選んだとしても、自分の愛に答えてくれないと、がっかりしたり、「もういいや」と投げやりになったりします。イエス様の順序は逆です。罪があろうが、不十分だろうが、まず愛する。その愛に答えてくれなくても愛する。イエス様は十字架のうえで「父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているのか知らないのです」(ルカ 23:34) と祈ってくださいました。私たちなら大声で自分の正当性を主張し、人がどれほど愚かで意地悪かを口にする場面でしょう。しかしイエス様は、ご自分のことを十字架につけた人が赦されるように、その人たちが愛の深さを知って生きていけるようにと願ってくださいましたのです。神様がこのような愛をくださった以上、私たちは互いに愛し合わずにはられません。これこそ、いつまでも未払いが残る負い目です。私たちは神様が愛してくださったようには愛せません。だから、この負い目を払おうとすればするほど、自分の愛の足りなさが暴かれることになりま。しかし、そのとき神様の愛はいつそう鮮やかになります。「こんな私を愛してくださったのか」と。

パウロは律法について「実行することによっ

ては、だれ一人神の前で義とされないからです。律法によっては、罪の自覚しか生じないのです」(ローマ 3:20) と言いました。掟は神様の愛に押し出されて、そう生きるのであれば、人を生かすものになり得ません。だから 9 節で『姦淫するな、殺すな、盗むな、むさぼるな』、そのほかどんな掟があっても、『隣人を自分のように愛しなさい』という言葉に要約されます」と言います。

「隣人を…」という言葉はレビ記 19 章 18 節からの引用です。自分のように愛せよと言われると、自分のことだって愛せないときがあるのに…、と思います。これは、愛の量や程度を表しているのではなく、立場を表しています。「自分と同じ人間として隣人を愛しなさい」という意味です。私たちは家族や同僚、友人たちに完璧を求めることがあります。反対に、何か嫌なことがあると同じ人間とは思えないと憤ることもあります。しかし、善にも悪も傾き、強さも弱さもある、白黒付けられない存在、それが私たち人間です。神様は確かでも、私たちは不確かです。この宙ぶらりんの存在でどうにか生きていこうとしています。

隣人の中にイエス様を十字架につけた罪を見つけるかもしれません。けれども、その人はイエス様が命の最後まで愛し抜き、祈り抜いた人でもあるのです。「私」にしてくださったのと同じように。

不安や恐れに抵抗できるのは愛です。神様は今こそ、この地で愛に生きる人を求めておられます。この求めに応える準備は神様ご自身が整えてくださいました。どんなに小さな愛の行いであっても、そこには神様がおられるのです。